

2012年11月7日  
No 1139号  
働くルールの確立で  
人間性の回復を

# 明治乳業争議団 ニュース

発行 明治乳業争議団  
連絡先 〒272-0015  
千葉県市川市鬼高2-6-2  
☎・Fax 047-332-5698  
E-mail mjnyu88sgd@wing.ocn.ne.jp  
HP 明治乳業争議団 ⇒ 検索

子どもたちの安全と未来のために

## 10・20 放射能から身を守る銀座デモ



### 南相馬市を訪問

南相馬市に居住する明乳争議団荒木団員の自宅を訪ね、婦人の市議会議員より、被災状況や復興の進行具合を聞いた。

南相馬市の死者953名、住家被害3,925世帯、津波被害面積は40.8Km<sup>2</sup>という。

今年の4月から立ち入りが許可された小高区を見たが、地震で倒壊した家屋がそのままの状態です生活できる時期は未定のままだ。

私たちは少しばかりの食材を持って仮設住宅を見舞ったが、自治会長さんとの「復興予算の使い道」の話題には下を向いたまま言葉はなかったが、怒りと苦渋の顔が覗かれた。

「原発ゼロ」への道は、被災者の切なる願いでもあり希望である。

またデモに先立って、主催した明治乳業争議団支援共闘会議松本悟議長は、この

連帯挨拶を日本婦人団体連合会事務局長・榎本さん、農民連国民運動副部長・上山さんからいただきました

大飯原発は直ちに停止を、行動を前に、東電福島原発をなどのサブタイトルを掲げ、10月20日土曜日の午後2時から日比谷公園「霞門」広場に、200名からの各団体、個人の皆さんの参加をいただきデモへ出発。デキシールバンド演奏を先頭のデモ行進は、東電前で「原発ゼロへ、許すな原発再稼働」。食材の放射能測定値は、「数値の公表をしろ」は、明治HD前。それぞれシュプレヒコールが土曜の午後の時間帯でにぎわう銀座通りに響き、信号待ちの人たちをはじめ沿道から多くの拍手と声援の声がありました。

### 「原発ゼロ」のシンボル「クローリング」の旗

またデモに先立って、主催した明治乳業争議団支援共闘会議松本悟議長は、この連帯挨拶を日本婦人団体連合会事務局長・榎本さん、農民連国民運動副部長・上山さんからいただきました

## 長期争議(28年)を闘いぬいている明治乳業争議団 「全国都労委事件命令」迫る、全面解決に向けた 財政確立へのご協力をお願い致します。

貴団体・各位のご奮闘に敬意を表すると共に、明治乳業争議への日頃からのご支援・ご協力に、改めてお礼を申し上げます。

さて、明治乳業争議は、全国事件(9事業所32名)からでも18年が経過し、市川工場事件(32名)からでは28年目となる長期争議ですが、全国争議が2011年11月30日の結審から1年を迎え、私たちはいま、文字通り28年間の思いを凝縮した闘いを集中し、都労委に「勝利命令を求め」団体署名を全国展開し、集中的な要請行動など、求められる全ての課題をやり切り、

なんとでも年度内に「救済命令」を勝ち取り、早期に全面解決への道筋を切り拓く決意です。

つきましては、首都圏と全国規模での闘いの飛躍を支える財政として、表記「全面解決に向けた財政確立」へのご協力を、率直に訴えさせて頂く次第です。誠に勝手ですが、年内から年頭早々を目処としてのご協力を重ねてお願い申し上げます。

尚、財政確立の一環として取り組んでおります「冬季物販購入」へのご協力も合わせてお願いします。

### 明乳争議と私

#### 八田好弘さん (元石川県労連議長)

1999年の6月頃だったと思います。当時私は、二口さんのことを「直さん」、二口さんは私を「八ちゃん」と言っていました。直さんは、明乳争議を勝利させるため、この石川県でも支援共闘会議をつくりたいので協力してほしいと話があり、当時私は、地域労連の議長をしていた関係もあり快諾？し、県労連にも協力をお願いし、9月28日に集会をすることを決め、二人で県下の労組や民主団体を駆け回り争議の支援と集会の参加を訴えました。28日当日、「明乳争議と石川県のすべての争議勝利」集会には、



### 訃報

福岡工場申立人  
日高 義文さん

昭和39年明治乳業神奈川工場入社し希望転勤で福岡工場へ移動。劣悪な労働条件の改善のため労働組合活動に参加し、職場代議員・執行委員も務め、臨時者の社員化など数々の成果も上げ、職場での信頼も厚く非常に行動力がある美男子でした。酒をこよなく愛し一升酒も飲む酒豪でもあった。

平成11年頃より、会社から、活動を止めれば昇給させるなどの執拗な攻撃がやまない中で「うつ病」に陥り、病をおして定年退職。入院療養甲斐なく今年7月31日ご逝去されました。都労委からの「救済」を目前に他界し残念でなりません。ご冥福をお祈り申し上げます。



森川章行さん  
通して  
きた。

昭和45年の選挙で大阪支部の役員体制が「志宝会」に部によって転覆させられると即座に、「森ヤン」は課長から「しばらく頭を冷やして来い」と言われ、港湾冷蔵という下の労働者から完全に切り離された。それでも支部の役員選挙に立候補し続ける「森ヤン」を会社は5年後に皆のものに戻さざるを得なかった。

誰かが認める彼は、「論客」と「森ヤン」の愛称で親しまれ、仕事でも組合活動上でも大きな信頼を寄せられてきた。若い新卒の労働者が大量に採用された時期には班長でもあった「森ヤン」のもとで大勢の若い労働者が仕事を覚え、組合活動にも目覚めていったと言っても過言ではない。会社がインフォーマル組織「志宝会」を結成し、労働組合支部の乗っ取りのために執拗な攻撃を繰り返していた最も困難な時期に、志部長や書記長の重責を担って支部活動の中心として頑張ってきた。平成9年「森ヤン」が定年を迎えるその年の春、会社は自ら設定した規定を捻じ曲げて、経過年数が1年不足している「森ヤン」を基幹監督職に昇格させざるを得なかった。「会社は罪滅ぼしのつもりかも知れませんが、こんなことで許される事ではない」と怒り心頭の「森ヤン」だ。

### 団員の横顔

#### 大阪工場申立人 森川章行

# 不正行為・不祥事またか

## 徹底究明ないままの幕引きは許されない

「明治よ、またか…」と云わんばかりの不正事件が、この夏に連続して起きました。入札をめぐる官製談合。細菌汚染製品の大量回収など、許すことのできない事件に明治はまたも口をつぐみ事件にフタをしようとしています。

### 防衛医大の粉ミルク入札で談合 会社ぐるみ組織的犯罪行為

防衛医科大病院に発注 業4社が7年前ころからする粉ミルク入札めぐり 談合して順送りで落札して、同病院と明治など乳 価格を大幅につり上げて



### こんなこと許さんぞー



事項であり上層部を含め会社ぐるみの組織的背信行為であったのです。事件は乳業側容疑者が不起訴となったか

いた事件は、4社7人(明治は2人)が書類送検され 取調べを受けました。また明治・東京支社などが大がかりな自宅捜査を受けてもいます。この中で7人は、病院側担当者の「指示通りに落札していた」と容疑を認め、さらに調べに対し「談合は長年の引き継ぎ事項だった」(朝日)、「応札も現場の一存では決められない」(産経)などと自供しています。このことは、今回の談合が担当した営業員の自己判断ではなく、社内的重要な報告・連絡



「食中毒の疑いも」

「株」明治の子会社、芽胞菌の中に何種類のあパンピー食品会社が製造する細菌の名前はいまだに「食中毒の疑いも」

### 細菌汚染プリン23万個回収

その真相は

### コロナ変わる原因説

「食中毒の疑いも」

# なんとしても全面解決へ 道筋切り拓く救済命令を!

昨年11月30日に結審している都労委「全国事件」ですが、いまだ命令交付期日は未確定です。

争議団と支援共闘会議 別事件なのです。その事は、異常企業体質の明治 実、先行して争った市(旧明治乳業)及び親会 川工場事件への東京高裁社「明治HD」を全面解 判決でも、結論は「控訴決の決断に追い込むには、棄却」の不当判決でした。なんとしても救済命令の が、その事実認定で①申交付が必要との意志を固 立人らの集団性を認定、め、団体署名の提出を含 ②集団間の「有意な格差」めた要請行動を重ねてい の存在を認定、③不当労働行為意思も「控訴人らなく、明治乳業事件は典 働行を妥当するとみる型的な不当労働行為・差 余地はある」と判示する

もう一息、家族で頑張るぞ!!



等、不当労働行為事件を判断する「3要件」を充たす事実認定だったのです。私たちは、明治及び明治HDに対し、高裁の事実認定に従う全面解決の決断を求めると、

## 争議解決こそ企業再生への確かな道筋

明治HD社前での「9・20争議支援総行動」は、250名の支援者が結集し大きく成功しました。新宿区労連常任幹事の福島さんの司会で始まった社前行動。主催者挨拶の高島地評副議長、連帯挨拶の松本支援共闘議長(千葉労連議長)、坂口全国食健連事務局長の気迫溢れる挨拶に共通したのは、一つは、明治の粉ミルク、学校給食牛乳の放射能汚染や、粉ミルクでの官製談合事件、さらに、ミルクプリンの細菌汚染問題など、後を絶たない不祥事・不正行為を怒りを込めて告発し、食品大手企業としての社会的責任を厳しく追及したこと。二つには、不祥事・不正行為の絶えない企業体質の背景となつている、異常な労働者管理を厳しく告発し、「健全な企業に立ち戻るには、異常な長期労働争議の全面解決は避けられない課題」であることを、厳しく明治HDに迫る内容だつ

## 9・20東京地評争議支援総行動



争議団の闘いの原点は、「働く者の生活や権利を守ってこそ食品企業に働く者の誇り」の旗を、握って離さないことでした。私たちは、食の「安全・安心」を守る闘いを通して会社を大きく包囲し、必ず争議全面解決への道筋を切り拓く決意で最後まで奮闘します。引き続きご支援を心から訴えます。